

ふくい健康の森は、 緑あふれる自然の中で、 ココロとカラダを元気にします。



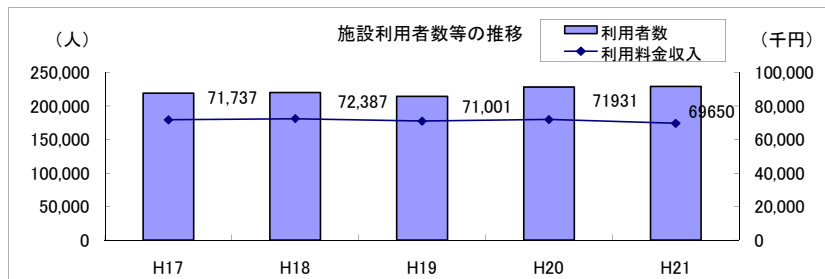
所在地	福井市真栗町47-47		
設置年月日	けんこうスポーツセンター:平成7年9月 温水プール:平成9年11月 健康スポーツ公園:平成7年6月		
施設の種類	スポーツ施設	施設管理主体	指定管理者(財)福井県健康管理協会
設置の目的	体力づくりに関する指導および講座を開催するとともに、体力づくりその他健康の増進に必要な施設および設備を提供し、もって健康で生きがいのある県民生活の確保に資する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	・けんこうスポーツセンター(トレーニングジム、エアロビクススタジオ、男女浴室、運動フロア等) ・温水プール(25mプール、幼児用プール、流水プール、ウォータースライダー等) ・健康スポーツ公園(多目的運動広場、テニスコート、ゲートボール場、400mトラック、中央広場等)		
職員数	指定管理者(職員6人)		

利用状況等

	H17	H18	H19	H20	H21
利用者数(人)	219,003	220,108	214,477	227,957	229,192
(スポーツセンター・温水プール)	166,450	165,608	166,377	174,757	176,392
(健康スポーツ公園)	52,553	54,500	48,100	53,200	52,800

利用者負担(利用料金)等

利用料金	大人	600円
	中学生以下	240円
	高齢者	480円



利用状況の推移	《利用者》 スポーツセンター・温水プールについては、前年度と比べ約1,600人(約1%)増加しました。健康スポーツ公園については、前年度と比べ約400人(約1%)減少しました。両施設を合わせたの利用者数は、平成10年度から平成18年度まで8年連続で増加し、平成19年度は減少しましたが、平成20年度からは増加に転じ、H21年度も年間利用者数の過去最高を更新しました。
	《利用料金収入》 スポーツセンター、温水プールなどの有料施設については、近年、利用者数の増加率が微増傾向であることから、利用料金収入についても、横ばいで推移しています。

施設の特徴

●子どもからお年寄りまで、一人ひとりが目的、ペースに合わせた運動を楽しめる。

ウォータースライダー付きの温水プールでワイワイ楽しむことから、健康運動指導の専門スタッフによる運動指導を受けながら、各自が自分の体力や目的に合わせて、トレーニングジムやエアロビクススタジオ、温水プール、室内運動フロアで体力づくり、健康の増進に取り組むことができます。

●ニーズにマッチした体力づくり教室の開催

利用される方のニーズに沿った、様々な体力づくり教室を開催しております。

☆テニス教室：ラリーを続けるための基礎的技術を習得して、健康・体力づくりの実技指導をします。

☆アクアウォーキング教室：水の中で色々な移動運動を通して、腰や膝に負担の少ない、安全で効果的な有酸素運動などを行います。

☆ヘルシーヨガ：いくつかの基本のポーズによって、ゆっくりとした動きの中で、心と身体のバランスを整えます。

☆エアロビクス教室：初級レベルから中級レベルのエアロビクスダンスで全身持久力を高めたり、インナーマッスルを鍛え、代謝を高めます。

この他にも、様々な教室を開催しております。

●スポーツ公園施設の利用

多目的運動広場やテニスコートなどの屋外スポーツが楽しめる施設が充実しています。

また、山に囲まれた地形を生かした遊歩道が整備され、ウォーキングが楽しめます。

スポーツセンターでは、テニス用具、ゲートボール用具、マレットゴルフ用具等、各種スポーツ用具を貸し出しております。

●アスレチックあそび、バーベキューなど自然の中で楽しむことができる。

バーベキュー広場・ふれあい広場・アスレチック広場があり、家族やグループでも楽しく利用できます。

また、周りは森林に囲まれ溪流が流れているなど自然環境にも優れ、ゆったりとした休養を図れます。

ふくい健康の森 ホームページ

<http://fkenkan.or.jp/kenmori/index.html>

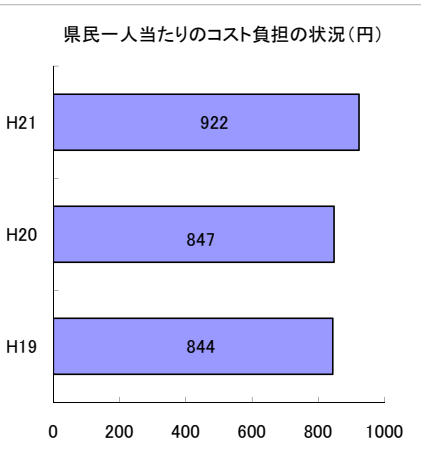
平成21年度の特徴について

事業実績	《指定管理者制度の導入》 平成18年度から、(財)福井県健康管理協会が、指定管理者として管理運営を行っており、主体的に事業を展開しました。その結果、下記のとおり、県民健康センターなど他施設との連携、利用者の利便性の向上、ニーズの反映など、より質の高いサービスの提供に取り組んでいます。
	無料バスの試行運転 7月、8月は全日開館(月曜の定休日も営業) 利用者のニーズを反映した教室等の開催 (3ヶ月減量講座や生活習慣病対策フィットネス講座など)

ふくい健康の森(けんこうスポーツセンター、
温水プール、健康スポーツ公園)(2/2)

行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	0	0.0%	-
	退職給与引当金繰入	0	0.0%	-
	賞与引当金繰入	0	0.0%	-
	計	0	0.0%	-
物にかかるコスト	物件費	207,642	27.8%	112.5%
	維持補修費	61,069	8.2%	398.2%
	減価償却費	433,050	57.9%	100.0%
	計	701,761	93.9%	110.9%
その他	支払利息	45,877	6.1%	81.3%
	その他	0	0.0%	0.0%
	計	45,877	6.1%	81.3%
合計		747,638	100.0%	108.5%
収入	利用料等収入	1,194	0.2%	95.9%
	一般財源	746,444	99.8%	108.5%

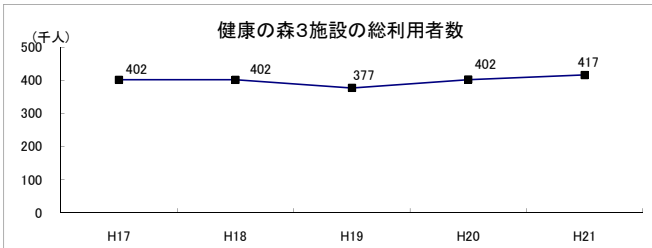
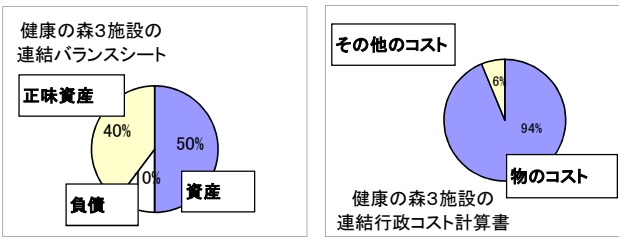


バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産	前年比	負債	前年比		
有形固定資産	9,912,630 95.8%	固定負債	1,438,832 87.9%		
うち土地	4,432,000 100.0%	うち起債残高	1,438,832 87.9%		
うちけんこうスポーツセンター	1,275,369 91.7%				
うち温水プール	1,297,920 92.9%				
うち健康スポーツ公園	2,907,341 93.0%				
投資等	-	流動負債	198,118 100.0%		
流動資産	-	純資産	8,275,680 97.2%		
計	9,912,630 95.8%	計	9,912,630 95.8%		

主な指標 (単位: %、円/人)

	H21	H20	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	12,246	12,734	96.2%
県民1人あたり将来負担額	1,778	2,015	88.2%
世代間負担率	83.5	82.3	101.5%



バランスシート、行政コスト計算書の特徴

平成21年度においては、物件費(前年度比12.5%増)、維持補修費(前年度比298.2%増)が増加しましたが、一方で公債費利子(前年度比22.1%減)の減少がありました。この結果、一般財源ベースでは、前年度比で8.5%の増加となり、県民1人あたりコストは8.9%増加しました。

バランスシート上、土地に関する資産は、生きがい交流センターおよび県民健康センターを含めて、一括で計上しています。土地に関する資産を除くと、スポーツ公園に関する資産が全体の半分、スポーツセンターと温水プールが残り半分になります。

生きがい交流センター等と比較し、資産規模、起債残高が大きいため、県民1人あたり有形固定資産額や将来負担額が大きくなっています。また、減価償却費と支払利息で行政コスト全体の6割を占めるなど、年間のコスト負担も大きくなっています。

なお、健康の森3施設の整備で借入れた約188億円の県債は、平成21年度末残高で、約27億円まで償還が進んでいます。

施設の目的上、管理運営上、主要な事業

幅広い年齢層を対象に、体力や健康状態に応じて楽しみながら運動が実践できるよう、利用者のニーズに沿った健康・体づくり支援業務を行っています。

①運動実践指導事業

- 個別運動プログラムに基づくトレーニング指導
- 肥満者の減量運動指導
- 高血圧、糖尿病等の現代病に対するトレーニング指導
- 高齢者の運動指導 など

②体づくり教室事業

- かんたんエアロ・エンジョイエアロ
- アクアウォーキング
- ヘルシーヨガ
- 水泳教室、テニス教室 など

今後の課題

- 「ふくい健康の森」としてのサービスの提供
福井県が設置したふくい健康の森は、公の施設としてすべての県民に対して、最大限のサービスを提供することを求められています。そのため、ふくい健康の森内にある県民健康センター(健診)、生きがい交流センター(温泉)と連携を密にし、「ふくい健康の森」にしか提供できないサービスを提供する必要があります。
- 多様化する利用者ニーズへの対応
単に運動をする場を提供するだけの施設ではなく、高まる健康長寿への志向、利用者一人ひとりにあった運動指導の提供など、多様化する利用者ニーズへの対応が必要です。
- 競争力の向上
県内には公営、民営のスポーツジムやプール、野外運動施設など類似施設が数多くあり、他施設に負けない、利用者にとって魅力のある施設運営を図る必要があります。

今後の事業方針取組み内容

- 県民健康センターなどの施設と連携し、県民の健康増進、社会参加、生きがい活動の促進を図ります。
(例) ふくい長生き温泉教室
- 利用者ニーズを的確に把握し、目的性を持った運動教室を開催するなど、より一層の利用増進を図ります。
(例) 減量講座 生活習慣病対策フィットネス講座 など
- リピーターの増加に力を入れ、より一層の利用増進を図ります。
(例) 個別プログラムに基づく運動指導